

荻窪病院だより

医療法人財団 荻窪病院 広報誌

2020年6月29日発行
発行責任者:村井 信二
企画/編集/印刷 地域連携室

〒167-0035
東京都杉並区今川 3-1-24
代表 TEL:03-3399-1101
地域連携室直通:03-3399-0257

2002年岩手医科大学医学部卒業。主に慶應義塾大学三病院産婦人科にて「生殖医学」「臨床遺伝学」「着床前遺伝子診断」の診療と研究に従事。学生時代は野球の捕手として知らす。「自由がなにより得がたい財産」が信条。



佐藤 卓
Sato Suguru

虹クリニック院長

生殖医療を専門とする「荻窪病院 虹クリニック」の新院長として佐藤卓医師が5月に着任いたしました。体外受精(IVF)を始めとした最先端の技術で、子どもを望む多くのカップルの希望に应运ってきた院長が、体外受精の進展と荻窪病院の関わり、また、生殖医療への思いと意義について語ります。

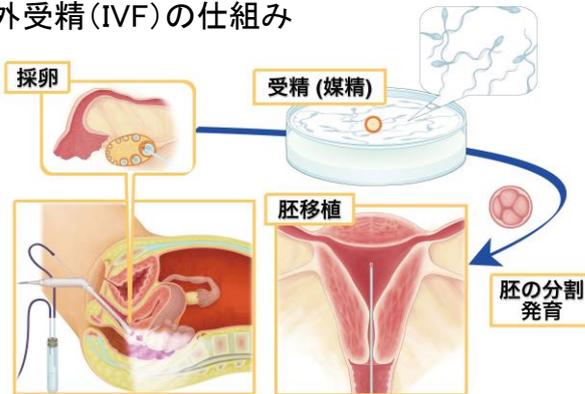
「産む」という選択を医療の面からサポートする 体外受精。キャリアとプライベートの 両立を願う女性の助けになりたいと考えます

現代の生殖医療は、体外受精(IVF)関連の技術を抜きには語れません。日本産科婦人科学会によれば、2017年に生まれた子どもの約16人に1人が、何らかのIVFによる出生と報告されており、

精子と卵子を体外で受精させ、発生した受精卵(胚)を子宮内に戻す事で妊娠を目指す技術であるIVFは、国内では1983年に初の妊娠例の報告がなされました(図)。当時は「試験管ベビー技術」とも表現され、人々には奇異なものとしても映り、社会的に大きな注目と批判を浴びました。その中でも、荻窪病院は早くからIVFの研究・診療に携わり、国内4番目のIVFベビーの妊娠を報告した経緯があります。

以来35年が経過し、IVFは「当たり前」の選択肢となり、子どもを望むカップルにとって、

体外受精(IVF)の仕組み



排卵直前の成熟卵を卵巣から吸引して採取(採卵)し、男性が射出した精子と培養液中で受精をさせます。一定期間、培養器中で发育させ胚が分割发育したことを確認し、胚を子宮内に移植します。

た。現在のわが国では、小規模診療所において、IVFが家内工業的に実施される事が主流です。大学病院ではない荻窪病院での医療の提供は、当時の人々に最先端の医療へのアクセスを容易とさせたと共に、現代に至る診療スタイルの確立にも大きな影響をもたらしたと言えます。

←裏へ

荻窪病院は
地域医療に
貢献します

理念

患者さんへ安心で信頼される医療を提供します。
職員へやり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。

基本方針

- 1.急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
- 2.個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
- 3.豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
- 4.経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。





医師・培養士・看護師・不妊カウンセラー・事務スタッフで構成される虹クリニック。子どもを望まれる皆さんの「虹の架け橋」になれるよう、ベストを尽くします。

年々増えている
IVFの希望者
男性不妊にも適応

「不妊症」とはある特定の疾患を指すのではなく、避妊をしていないにも関わらず妊娠に至らないカップルの「状態」を指しています。この30年で一般人口に占める不妊症女性の割合が増えているという事実はありません。

しかし、IVFの実施を希望する人は増え続けています。なぜでしょうか？

理由のひとつは、その適応が拡大されたことです。本来IVFは、卵管に器質的異常のある女性のために開発された技術ですが、現在では男性側に問題のあるカップルにも多く実施されています。荻窪病院・泌尿器科の大橋正和部長のグループによる、精巣内で造られる精子がごくわずかである事例に対する精巣内精子採取術 (TESE) に基づくIVFは、その好例です。

「産む性」である女性の自由と権利を尊重する技術としてのIVFでありたいと思います

また、IVFは原因不明の不妊症に対しても実施されますが、この原因不明の事例には、実際には高齢のカップルを多く含んでいます。

女性の社会進出に伴い、結婚時期・出産を考慮する時期が遅くなっているのは世界的な現象ですが、この加齢に伴うネガティブな影響もIVFにより、ある程度までは克服可能であり、その実施が増えている理由のひとつ

荻窪病院 虹クリニック



とつとなっています。

現代社会における女性の躍動は、男性と同様の権利を求め続けた女性の長い闘争の歴史で勝ち得たものであり、子どもを産むか産まないか？ 産むならいつ産むかを自ら決めることができる権利は決して否定されないものです。キャリアとプライベートの両立を願う多くの女性をサポートする上でIVFの果たす役割は極めて大きく、その診療に携わる事にやりがいを感じずにいられません。

2008年に荻窪病院の生殖医療部門が独立し開院。荻窪駅南口より徒歩5分。お問い合わせ・初診予約は 03-5335-6577 (月～土 11:00～15:00) までどうぞ。



新型コロナウイルス感染症対応

皆様からのご支援に心から御礼申し上げます

荻窪病院は東京都地域医療支援病院、東京都感染症協力病院として、新型コロナウイルス感染症治療に取り組んでまいりました。具体的には、

- ① 発熱外来の設置
- ② 中等症・重症の入院患者さんの治療を行ってまいりました。

受け入れに際し、一般の患者さんも安心して治療を継続できるよう、新型コロナウイルス感染症および疑い患者さんと、そうでない方の動線が交わることがないようにゾーニングをしっかりと行い、全職員がエビデンスに基づいた感染拡大防止策を徹底して行ってまいりました。

このような中、当院に多くの皆様より、様々なご支援の寄付を頂戴いたしました。職員一同、皆様の心温まるご支援に大変勇気づけられましたこと、心から感謝申し上げます。

これからも温かなご支援にお応えできるよう、新型コロナウイルス感染症の終息に向けて、職員一同、真摯に職務に励んでまいります所存です。



理事長・病院長
村井 信二

